

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年6月15日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690800097		
法人名	株式会社 北陸福祉会		
事業所名	はびねすグループホームすぎのき		
所在地	富山県砺波市杉木1丁目131番地		
自己評価作成日	平成28年5月7日	評価結果市町村受理日	平成28年7月4日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社
所在地	富山市荒町2番21号
訪問調査日	平成28年5月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

お客様一人ひとりに寄り添いながら、個人の意思を尊重し、笑顔のある楽しい生活を送っていただけるように職員一同心掛け、毎日を清潔な環境でお過ごしいただけるように清掃にも力を入れています。さらに、看護師を配置して健康管理を行なっています。毎月行なっている誕生日会のほか、外食や季節に応じた行事を行ない、お客様同士や職員との交流を図り、親睦を深めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

職員は利用者のパートナーとして寄り添い、一人ひとりに笑顔で接するように心がけ、利用者の意思を尊重し持っている能力を大切にしながら支援している。家族や馴染みの友人が気軽に事業所に立ち寄れるよう、家庭的で開放的な雰囲気作りに努めている。また、職員の資格取得推奨や研修受講にも積極的に対応し、サービスの向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

はびねすグループホームすぎのき

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく暮らしていただく為、グループホームの役割、位置づけに応じた理念を立てて、支援をしている。	理念を休憩室に掲示したり、毎月のミーティング時に確認し、管理者および職員全員で共有して利用者の意思を尊重しながら実践につなげるよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩等に出掛け、出会った方と挨拶や会話を交わしている。併設の小規模多機能事業所の利用者お客様とも定期的に交流を行っている。また、自治会の祭りの時には、お客様に夜高行燈を披露していただいたり青年団の訪問を受け太鼓を披露してもらう等、地域との交流を深めている。	日頃から地域の人たちとの「ふれあい」を大切に、散歩に出かけ近隣の人と挨拶を交わしたり、話をして交流を深めている。自治会の祭りの時には青年団や子供たちが駐車場で獅子舞などを披露し、利用者も楽しんでいる。	地域との関わりが深まるよう、運営推進会議などで地域の情報を得て、地域行事に積極的に参加するなどの取り組みが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員の方々の視察を受け入れ、認知症やグループホームでの生活について知っていただく機会を設けている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	お客様の家族、地域住民代表、地域包括センターの職員、グループホーム運営者、職員により、現状報告や参加者からの意見や要望を話し合い、サービス向上に反映させるよう努めている。	2ヵ月毎の運営推進会議では、事業所からは利用者の様子や行事予定などが報告され、委員からは市内の認知症の状況や注意事項などの報告があり、双方で意見交換し、意見を参考にしてサービスの向上に取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、地域包括センターの市職員が出席されホームの取り組みを報告している。また、市主催のサービス事業所連絡会議に出来る限り参加をし協力関係構築に努めている。	地域包括センターへは事業所の様子や利用者の状況を報告し、センターからは認知症のケアに対するアドバイスを貰うなど、情報交換し協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を行っている。また、身体拘束排除マニュアルを作成し、日々のケアを行っている。防犯上、玄関の長時間施錠は行っているが、お客様が外出したい時は、いつでも外に出られるようにしている。	身体拘束がケアにおいてどのようにどんな場面で現れるか、研修などで具体的に話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者の様子から行動を察知し、利用者に寄り添い言葉掛けにも注意しながら支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成し、職員全員で意識を共有している。入浴時や更衣の時などにちょっとした傷やあざも見逃さないように努めている。また、言葉による虐待がないよう指導している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	司法書士会から講師を招き、成年後見人制度や権利擁護について職員全員が学んでいる。また、必要性がある家族に成年後見制度を紹介し、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に時間をかけて説明を行い、ご家族の方にも一緒に重要事項説明書と契約書を読んで頂き、不明な点がある場合は、理解して頂けるまで説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情、意見箱を設置している。また、ご家族が訪問された時に意見、要望を聞き、内容を業務日誌などに記録し職員全員が把握できるようにしている。	日頃から利用者の話に耳を傾けたり、利用者や家族から意見や要望が出易い雰囲気づくりに努めている。通信「すぎのき」だよりのほか、毎月、家族宛に事業所の行事や利用者の様子などを報告しており、意見や要望があれば運営に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、代表者と全職員によるミーティング行ない、意見交換や提案を聞いている。また、日頃より職員から要望や意見が聞けるようにコミュニケーションを図っている。	代表者も参加して毎月ミーティングを開き、職員の意見や要望を聞く機会を設けており、現場での提案や意見、個人の要望を反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員から機会を見つけては意見を聞いたり、勤務状態に気を配っている。また、資格取得を推奨するなど、職員のやりがいと向上心を持って働ける職場環境の整備に日々努めている。資格取得者には、手当を支給している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に職員を研修に参加させており、中堅職員は、認知症実践者研修を修了している。また、ほとんどの職員は、日本認知症グループホーム協会の研修会に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	公益社団法人日本認知症グループホーム協会に加盟しており、加盟事業所の見学や研修会に参加して勉強した内容をサービスの向上に活かしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お客様が、安心して暮らせるように、入居される前後に本人の要望や困っていることを聞く時間を設けて信頼関係を築くように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用までの経緯や、グループホームでの生活に対する不安や要望を時間をかけて伺い、ご家族が安心してサービスを利用して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族から要望や状況等の情報を集め、アセスメント表を作成し、それに基づき『その時』に必要なサービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様は人生の先輩であるという思いを職員全員で共有しており、それぞれの得意分野で力を発揮して頂いて、お互い協働しながら良好な関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りを発送しており、内容は、献立表・行事や日常のお客様の様子が書かれている。行事の時の写真なども同封している。また、季節毎にホームの新聞を発行してお客様の生活状況をお知らせしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている	馴染みの友人等が継続的に訪れて頂き、楽しい時間を過ごしてもらえよう職員が気遣いを行っている。	馴染みの友人たちが気軽に立ち寄れるよう、職員は笑顔で迎えている。利用者の要望があれば、馴染みの店に買い物に出かけたり外食に出かけるなど、場所や人との関係が持続されるよう、支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで楽しく過ごす時間や、共通の趣味や気の合う方同士で過ごせる時間を作るように、職員が調整役となり、お客様同士が良好な関係になるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、これまでの生活が損なわれないよう、グループホームでの生活環境、支援内容、注意が必要な点などの情報提供を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	お客様と日々の会話を通して情報収集を行い、希望、意向を把握するように努め、記録に残している。また、ご家族から話を伺い、お客様が何を望んでいるのかを把握し、ケアに反映させるよう努めている。	利用者にはいつも笑顔で接するように心がけ、何気ない会話や日々の行動を見守る中で思いや意向の把握に取り組んでいる。また利用者同士の会話にも耳を傾け、職員間で情報を共有しながら本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から聞き取りを行っている。情報は、個人の日誌に記入し、全職員がその情報を共有できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムを把握し、日々の行動や表情等から心身の状態を感じ取り、本人の全体像を把握するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族からは、日々の関わりの中で意見や要望を聞き、介護計画に反映できるようにしている。また、カンファレンス、モニタリングで職員の意見も組み込み作成している。	本人らしい生活のあり方を考え、本人の思い、家族からの要望や情報、職員間での意見などを反映し介護計画の作成に努めている。縫物や楽器演奏など得意な事や趣味なども現状に即して進めており、また随時見直しも図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事・排泄等の身体的状況及び日々の暮らしの様子や、本人の言葉、行動等を記録している。職員には、業務開始前に記録の確認を義務付けしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて、通院の送迎、買い物の代行等必要な支援には柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に一度、地域の理美容師による訪問理美容サービスや、提携先協力医の訪問診療を利用されたり、近くのスーパーへの買い物等、地域の社会資源を活用されている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医について説明をし、ご本人、ご家族の希望に応じて対応している。受診、通院は基本的にはご家族にお願いし、無理な場合には職員が同行している。また、2週間に一度協力医院の医師による訪問診療がある。	利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診をすすめている。協力病院は2ヶ所あり、往診体制が図られており、いつでも適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常にお客様の健康管理や状態の変化に応じた支援が行えるようにしている。看護師と介護職員は、申し送りや業務日誌等で情報を交換、共有し、体調変化の早期発見、早期対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ホーム長と看護師がお見舞いに行き、ご家族や病院関係者との情報交換をしながら、回復状況を知るように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期については、ホーム長が早い段階から家族と話し合いを行い、事業所で出来る事を十分に説明している。	重度化や終末期対応については、早い段階から本人、家族に対して事業所として出来る事などを説明し理解してもらうよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生マニュアルに沿って訓練を行っている。職員全員が普通救命講習を受講しており、初期対応の実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画、災害対策のマニュアルを作成している。消防署の協力を得て、年2回避難訓練の実施や防火講習会を受講している。地域との協力体制を築くよう、運営推進会議等でも提案している。	年2回消防署立ち合いで避難訓練を行い、地域の協力は運営推進会議や地域行事の場をお願いしている。食料品の備蓄も今年から準備している。	避難訓練に於いては実際に避難場所への誘導を行うと共に、地域の協力を得られるよう運営推進会議などで働きかけることが期待される。また食料品以外の備蓄用品もリストアップし準備されることが期待される。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティング等の話し合いで、職員の意識向上を図ると共に、お客様の誇りやプライバシーを損ねないよう、尊敬の念を持って接する事を心掛けている。	利用者には人生の先輩として尊敬の念を持ち、常に笑顔で接するよう心がけている。また馴れ合いの言葉遣いにならないよう職員間で注意しながらケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の対話の中から、お客様の思い、希望を聞き、その方に応じた選択方法や説明を行い、その方の思いが出来る限り叶うように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあっても、一人ひとりの生活ペースに配慮し、その方の思いで一日を過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけ、着替える衣類はご本人に決めて頂いている。お化粧品などもご本人の意思でして頂いている。また、職員がマニキュアをして差し上げる場合もある。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を取り入れた献立を心掛け、お客様と一緒に下準備、配膳、後片付けを行っている。また、食事は職員と会話を楽しみながら行なっている。	利用者には準備から調理の盛り付け、後片づけなどを手伝ってもらっている。職員と共にテーブルを囲んでの食事は、ゆっくりと味わいながら会話のほずむ楽しい時間となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎日日誌に記録し、栄養バランスや水分量等を観察している。また、個々の好き嫌いを把握し、提供する食事量や形態を変更している。毎月体重測定を行い、個々への対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自分で出来る方は声掛けをし、介助が必要な方は、職員が行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、個々の排泄パターンを把握し、日中の紙おむつの使用はせずに時間毎の誘導、声掛けを行っている。	一人ひとりの排泄リズムをつかみトイレでの排泄を進めている。夜間では安眠を重視して、安心のためにおむつやパットを使用する方もいるが、日々状態を見て支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事の中で牛乳やヨーグルト、食物繊維が豊富な食材を使うことにより、極力薬に頼らず自然な形で排便を促しているが、入居者様によっては主治医の指示により薬による方法もとっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日お風呂を沸かし入浴できるようにしている。入浴拒否の方や身体状態の悪い時等は、清拭や足浴を行うように努めている。また、一般浴に不安がある方には、機械浴にて安心して浴槽に浸かって頂いている。	利用者の体調やその日の気分など状態を見て、ゆっくりとした入浴をすすめている。暑い日の発汗や失禁などにはその都度清拭を行い、身体の清潔保持に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠の方は、日中の活動を促しているが、そうでない方には、個々の判断で日中も休んで頂いている。室温の管理や、湯たんぽ、飲み物の提供なども行い、安心して休めるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に変更がある場合は、日誌に説明を記入している。薬の処方情報をファイルに綴じ、職員全員が把握できるようになっている。また、誤薬の無いように看護師、遅番職員、夜勤職員で3度チェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意分野で力を発揮して頂けるよう、女性の方には家事や手芸など、男性の方には力仕事などをお願いし、感謝の意を伝えている。また、外食や見物などに出掛け、気分転換ができるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や本人の気分や希望に応じて、日常的に散歩、買い物、ドライブに出掛けている。また、花見や外食などの行事も行なっている。季節の行事の時などには、ご家族と一緒に参加できるように支援している。	事業所の前に公園があり、お天気の日には草花の散策や散歩に出かけたりしている。希望があれば買い物にもお連れし、季節ごとの花見や回転ずしなどの外食も利用者全員が楽しく参加できるように取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金を持っておられる方もいるが、基本的にはご家族よりお小遣いとしてお金を預かり、事務所で管理している。そこから、買い物に出掛けた時など、ご本人が欲しいものを購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	葉書、切手の準備など手紙が出せる支援を行っている。電話は、希望時にいつでもかけられるようにしている。また、ご家族及び本人からの希望で携帯電話を所持されている方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は明るく、落ち着いた雰囲気、太陽の自然な光が外から入るよう配慮している。また、お客様の作品を展示したり、行事の写真を貼り、皆が楽しめる空間作りに取り組んでいる。畳の間には、仏壇があり、お客様が仏飯や水を供え、毎朝お参りをするなど生活感を大切に空間作りをしている。	毎朝全員で和室の仏壇にお参りしてから一日が始まる。明るく清潔に保たれている共有フロアは、ボード一面に利用者の表情豊かな顔写真や季節の手作り作品が飾りつけてある。テーブルを囲んでの利用者同士の会話も多く、利用者の弾くキーボードの演奏に合わせて歌声が響いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの一角には和室があり、腰を掛けたり、昼寝をしたり、仏壇にお参りをしたりできる。また、ソファに座りくつろいで会話を楽しんだり、テレビを見ることもできる。お客様同士、日向ぼっこ出来る場所も設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家で使っていた、馴染みの家具や家族の写真などが飾ってある。	馴染みの家具を持ち込み家族写真も飾っている。またハンガー掛けには季節の衣類が掛けてあり、自宅の部屋のような雰囲気が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人にとって、何が『わかりにくい』のかを把握し、どうすれば、『できること』、『わかること』に変えられるかを職員全員で話し合い、その都度、環境作りをしている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 はびねすグループホームすぎのき
 作成日 平成 28年6月28日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	避難訓練に地域住民の方が参加されていないことや、近隣地区の防災情報が収集できていない。さらに、非常用備蓄がなされていない。	グループホームでの避難訓練に地域住民の方に参加して頂けるようよびかけたり、災害時の避難場所などの防災情報の収集や非常用備蓄の検討に務める。	運営推進会議に自治会長の出席があるので、地域の方々へ協力や情報提供して頂けるようお願いをする。また、非常用備蓄の準備をする。	1年間
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

はびねすグループホームすぎのき